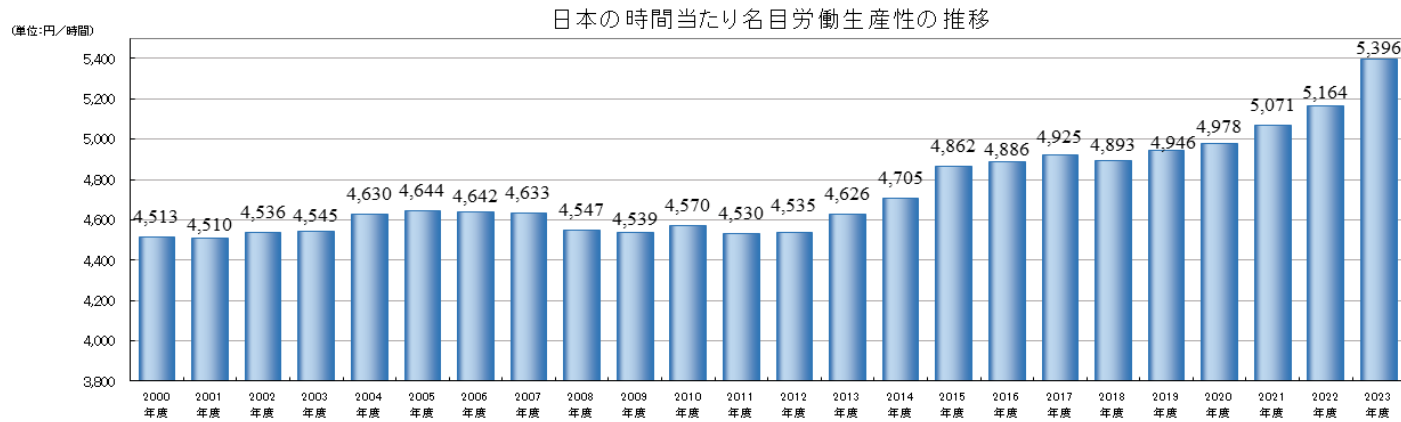


日本の労働生産性の動向 2024

概 要

日本の時間当たり労働生産性 (就業1時間当たり付加価値額) の現状

- 2023年度の日本の時間当たり名目労働生産性(就業1時間当たり付加価値額)は5,396円。現行基準のGDPをもとに計算できる1994年度以降で最も高くなっている。
- 物価上昇を織り込んだ2023年度の時間当たり実質労働生産性上昇率は前年度比+0.6%で、3年連続で上昇率がプラス。経済の拡大(+1.0%／実質経済成長率)が労働生産性上昇に寄与する一方、インプットに相当する就業者数の増加(+0.4%)が労働生産性上昇率を下押ししたことが影響した。
- 四半期ベースでみると、2023年度前半の4～6月期(前期比-0.8%)・7～9月期(同-0.1%)はマイナスだったものの、後半に入ると10～12月期(同+0.2%)・2024年1～3月期(同+0.5%)とプラスに転じている。足もとの2024年4～6月期(-1.0%)は、再びマイナスに転じており、労働生産性の上昇と低下が交錯するやや不安定な状況が続いている。



※左図で省略している1994～1999年度の時間当たり名目労働生産性水準は、1994年度4,152円・1995年度4,251円・1996年度4,331円・1997年度4,383円・1998年度4,418円・1999年度4,453円である。

※時間当たり実質労働生産性上昇率の要因別寄与について

時間当たり実質労働生産性上昇率＝実質経済成長率－就業者数増加率－労働時間増加率とする定義式より

付加価値要因

- ：実質経済成長率がプラス
→生産性にプラスに寄与
- ：実質経済成長率がマイナス
→生産性にマイナスに寄与

就業者要因

- ：就業者数が増加
→生産性にマイナスに寄与
- ：就業者数が減少
→生産性にプラスに寄与

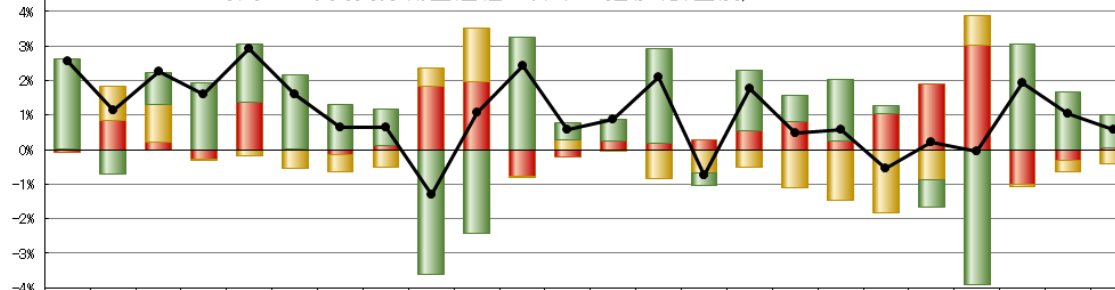
労働時間要因

- ：労働時間が増加
→生産性にマイナスに寄与
- ：労働時間が減少
→生産性にプラスに寄与

とする関係にある。

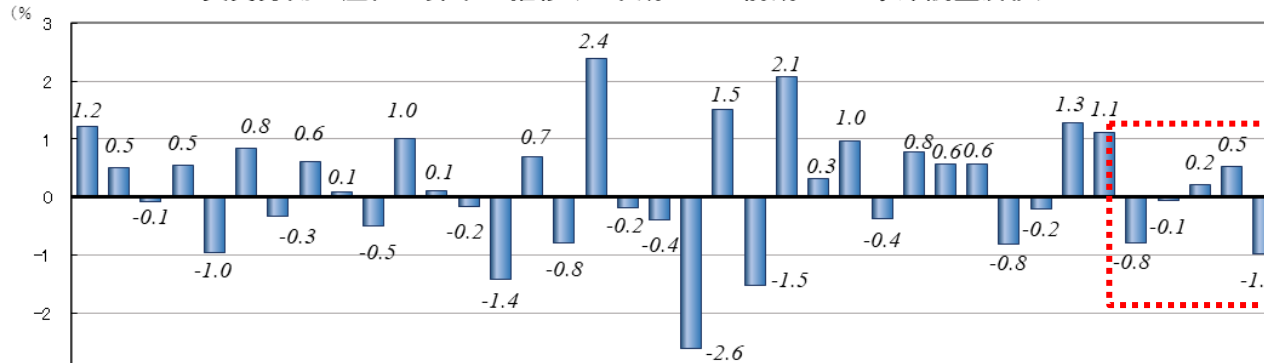
労働時間・就業者数の実際の変化率は、左図の寄与のナ－の符号を逆にしたものであることに留意されたい。

時間当たり実質労働生産性上昇率の推移(要因別)



	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
付加価値要因(実質経済成長率)	2.6%	-0.7%	0.9%	1.9%	1.7%	2.2%	1.3%	1.1%	-3.6%	-2.4%	3.3%	0.5%	0.6%	2.7%	-0.4%	1.7%	0.8%	1.8%	0.2%	-0.8%	-3.9%	3.0%	1.7%	1.0%
就業者要因(就業者増減率)	0.0%	1.0%	1.1%	0.0%	-0.2%	-0.5%	-0.5%	-0.5%	0.5%	1.5%	0.0%	0.3%	0.0%	-0.8%	-0.7%	-0.5%	-1.1%	-1.5%	-1.8%	-0.9%	0.9%	-0.1%	-0.3%	-0.4%
労働時間要因(平均労働時間増減率)	-0.1%	0.8%	0.2%	-0.3%	1.4%	0.0%	-0.1%	0.1%	1.8%	2.0%	-0.8%	-0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.6%	0.8%	0.3%	1.0%	1.9%	3.0%	-1.0%	-0.3%	0.0%
時間当たり実質労働生産性上昇率	2.5%	1.1%	2.3%	1.6%	2.9%	1.6%	0.6%	0.6%	-1.3%	1.1%	2.4%	0.6%	0.9%	2.1%	-0.7%	1.8%	0.5%	0.6%	-0.5%	0.2%	0.0%	1.9%	1.0%	0.6%

実質労働生産性上昇率の推移(四半期ベース前期比／季節調整済値)



(四半期別)		1'13				4'13				1'14				4'14				1'15				4'15				1'16				4'16				1'17				4'17				1'18				4'18				1'19				4'19				1'20				4'20				1'21				4'21				1'22				4'22				1'23				4'23				1'24				4'24																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3	4'6	7'9	10'12	1'3

※ 内閣府「国民経済計算」、総務省「労働力調査」、厚生労働省「毎月勤労統計」をもとに日本生産性本部が作成。

GDP: GDP速報2024年4～6月期2次速報データを利用。

労働生産性: 付加価値ベースで計測。

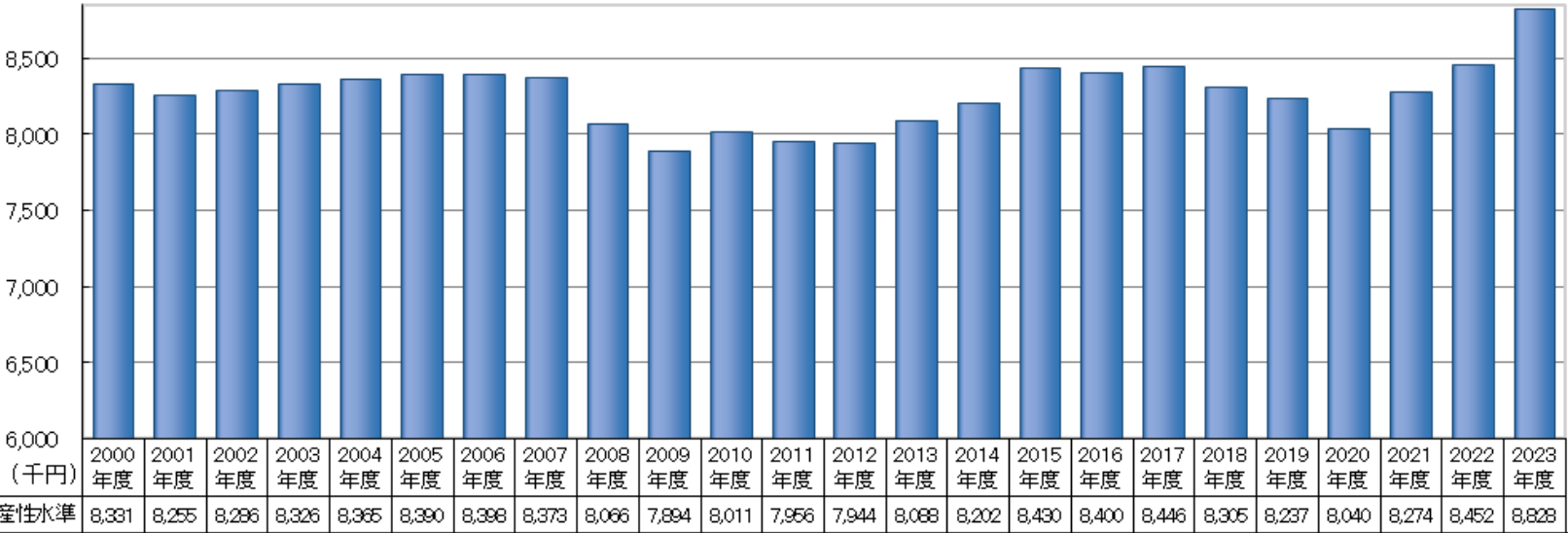
労働生産性計測にあたっては、毎年最新の政府統計を利用して過去分を含めて計算を行っている。そのため、国民経済計算が過去に遡及して改定を行うことなどを反映し、2022年度以前の生産性水準などの数値が昨年度報告と異なる。

日本の労働生産性 (就業者一人当たり付加価値額) の現状

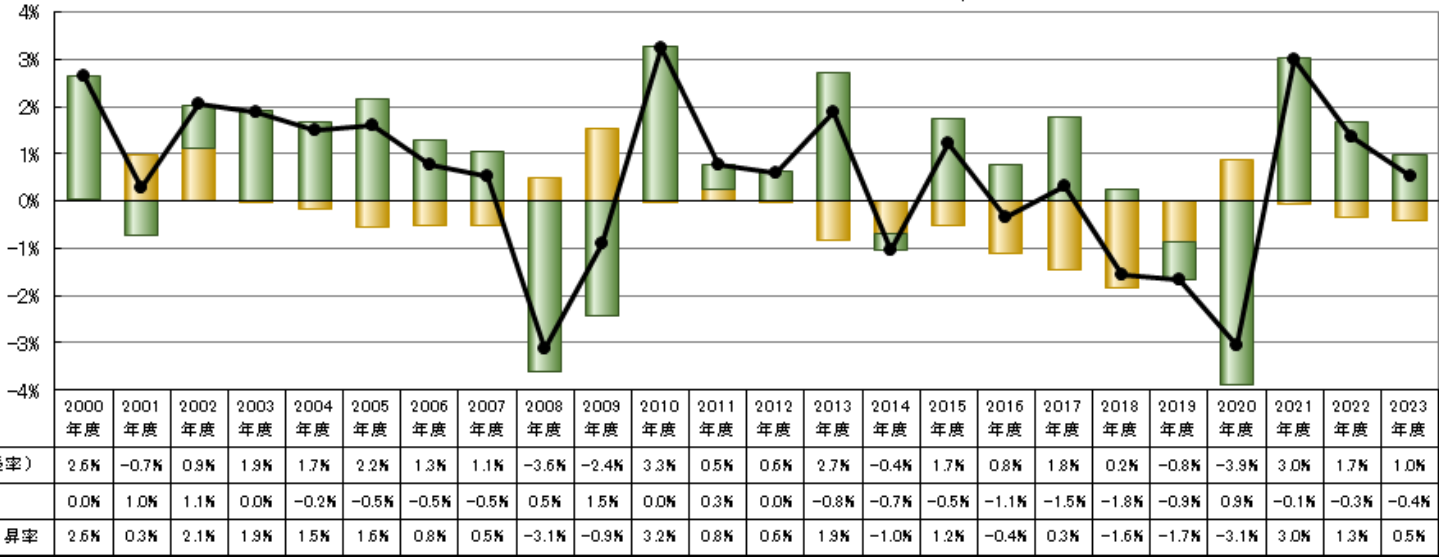
- 2023年度の日本の一人当たり名目労働生産性(就業者一人当たり付加価値額)は883万円。物価上昇の影響もあり、名目ベースでは現行基準のGDPをもとに計算できる1994年度以降で最も高い水準になっている。
- 実質ベースの一人当たり労働生産性上昇率は前年度比+0.5%(2023年度)と3年連続でプラスになったものの、2022年度(+1.3%)から0.8%ポイント落ち込んだ。
- 2023年度の労働生産性は、就業者一人当たり(+0.5%)と就業1時間当たり(+0.6%)で上昇率にほとんど差がないが、これは労働時間(-0.04%)がほとんど変化していないため。2023年度の労働時間は、一般労働者で増加しているが、相対的に労働時間の短いパートタイム労働者の比率が上昇しており、それが労働時間増を相殺している。

日本の労働生産性（就業者一人当たり付加価値額）の推移

日本の就業者1人当たり名目労働生産性の推移



就業者1人当たり実質労働生産性上昇率の推移(要因別)



※ 内閣府「国民経済計算」、総務省「労働力調査」、厚生労働省「毎月勤労統計」をもとに日本生産性本部が作成。

GDP: GDP速報2023年4～6月期2次速報データを利用。労働生産性: 付加価値ベースで計測。

※図で省略している1994～1999年度の名目労働生産性水準は、1994年度7,931千円・1995年度8,136千円・1996年度8,272千円・1997年度8,273千円・1998年度8,231千円・1999年度8,215千円である。

- サービス産業の労働生産性上昇率(−0.2%／2023年度)は、2020年後半から概ね0%近傍で推移している。足もとの2024年4～6月期をみても、停滞基調に変化は見られない。
- 主な業種をみると、小売業は2022年度に労働生産性が上昇したが、売上などを総合したアウトプット(産出)の伸びがマイナスに陥った影響から2023年度に入って減速している。一方で、人手不足が深刻なこともあり、賃金は上昇が続いている。
- 飲食店の労働生産性は、2022年後半に底入れし、その後緩やかに回復するような推移をたどっている。一方、賃金は、2024年に入って再び上昇に転じており、賃上げに生産性向上がなかなか追いつかない状況にある。
- 製造業の労働生産性は、2020年第2四半期の急激な落ち込みからはV字回復したものの、その後停滞が続いている。2024年第1四半期に自動車の認証不正で生産活動が落ち込んだことも影響した。

※労働生産性とは

- 労働者一人当たりで生み出す成果、あるいは労働者が1時間で生み出す成果を指標化したもの

$$\text{労働生産性} = \frac{\text{output (付加価値額 または 生産量 など)}}{\text{input (労働投入量 [労働者数 または 労働者数 \times \text{労働時間}])}}$$

- 労働者がどれだけ効率的に成果を生み出したかを定量的に数値化したもの。
- 労働者の能力向上や効率改善に向けた努力、経営効率の改善などによって向上。
- 労働生産性の向上は、経済成長や経済的な豊かさをもたらす要因とみなされている。

＜参考＞労働生産性の国際比較について

＜参考＞労働生産性の国際比較2023 図表

日本生産性本部では、1981年より、OECDや世界銀行、各国統計局などのデータに基づいて世界各国の労働生産性の比較を行い、発表しています。

今年度は、2024年12月下旬に発表を予定しています。

